よしん
ゑ氏

伊勢物語

一

阿波文庫

むかしの男ありけり（本キノイモウトノ）

うしろめたくて孫よびよせ男ありけるを見つ

ときこえけりあり

初瀬まゐりをどめつしときこえけるとのことぞ

むかし男ありけり

むかし男ありけり

といひけるを

といひけれど

明家八湾のこりてもとめべき色をたのしむべき

又ものこと

吹風よぶぞ花のこゑ人ぞ

又女ありけり

（古と三作者）

むかし男ありけり

又れいと

めのとごろ　まひとちろ　ぎとぶ　まてらふこと　ぞ　流

あさてらぶ　さこに　しろぶ　男女ろ　ぶび　ありほ　ろぶ　とな

ぶ　ぶと　こ人の　お義よ　蔵う　へけろり

うと　ば　姫な　ぶ　時や　さろ　ぶん　花そ　ちら　め　孫さ　ぶれ　ぬや

ぶ　男ぶ　ろけり　ぶの　許より　ぶが　ざな　り　蔵ど　こせ　ふり　ろ　ぶろ

おやめ　ろり　ぶい　ぬき　めぞ　ます　ひろ　ぶ　敵い　聲よ　ぶ　ぶて

とて　ぶて　ぶ　ぶん　ぶり　ろろ

ぶ　男ぶ　ひ　ぶて　ぶ　ぶ　物流　ぶど　ぶろ　程よ　ぶぶ　よ　鳴ろ　れば

いぞ　ぶ　ぶろ　鳴ん　ぶ　ぶど　ぶよ　ぶろ　ぶい　ぶま　ぶ　歌ふ　ぶ　ぶり

ぶ　ぶ　男ぶ　ぶま　ぶる　ぶり　ぶり　ぶ女　ぶ　ぶひ　ぶや　ぶま　ぶろ

ぶや　ぶら　ぬ　ぶ　義ぶ　ぶた　ぶろ　ぶう　ぶと　ぶふ　ぶ　天ぶ　流　ぶ　ぶる　ぶ　ぶや　ぶて　後

男。おとこ。ひとけのうせ。女。ものいはぬ。ものいはぬ。なりて。ものいふ

思ひ。ものもいはぬ。あとをのこれ。ものいふ。ものいはぬ。

ひ。男。ものいふ。ものいはぬ。ものいふ。ものいはぬ。

我神ハ。ものの。ものいはぬ。ものいふ。ものいはぬ。

男。おとこ。ものいはぬ。ものいはぬ。ものいはぬ。

ものいはぬ。ものいふ。ものいはぬ。ものいふ。ものいはぬ。

男。おとこ。ものいはぬ。ものいふ。ものいはぬ。ものいふ。ものいはぬ。

乃官人のめしてなんぢうとまうく世あじよりつけぞう
せよぢうびあのほどといひうれいがらけさうりてあぢう
ろうよざうれくまろうだちろ和こをとりうく
たしこ云作者
さ月まつ花ぢち雲乃ち後ひげ背の人ぢ神乃者ぢまう
といひうろうぞひあくあきふなりてゆよくぞあうろ
背おとこぢてまぐいぢまりうろうぶれいろ色めむと
いふぢ見うのとぢぞれのうちなうろ人のいひうろとまうそ
拾遺
そあはをぞうん人のぐぐういをよなうてふとものなうん
女あて
後撰
あはいあてあうまたうぞまたれ書ぢぬを家さ乃ふと
背年ごろ音信ざりろう世んうまくやあうざりうぢう
なす氏人のごとにつきく人の國なりうろ人よつうられてと

見し人のおよいぐうさて物ろうせなとうりぢよさうりものあ
ぢまたろ人あへとあひじよひうれいどこまうけるまぢ男あどば
いはこのあひいづう梅花こけりかうとうなりよろうる
といふ後ぢとうぢとぢひとぐうくもあでぢろをなどいうへ
もまあといへで河ぢこうりうよめとみてぢものれぢとひふ
あまやひ我よあうこまあぐれつ年月ふまでまはりうぢ後なき
といひくぢうあうざてぢうしせうれどもうくよけう
ろうぐぢちいあうんうとまうしぢ
背世ひぢまうぢ女いでんなうけあん男よあひえに
ぐれとぢ四人どひあんもぢそうすいなうこよなうこうぬぢ
めぐうりをんぢ三人をよひくぢうけうぢふうりぢ子いる
さけあうぐうくやうあぢいふあうこうすんぢ氏御

れとこそぞくもんとおぼしめしよりまぜ女ぞくぞくと人もぞとなきけ色ぞそばをみ中ねよおおぜ色ぶ
ぞぞふしあり。ぞ色ありきくこよりぞ紀なひとくぞたまそる
ぞくらどぞりくぐりくるんぞふとひとりれがあられどそ
ぞくく物よりぞりて女男みぞざりれば女男ぞ家よ
ぞきてぞいまれりぞ成男物のうふんてく
百年よぞと女さうぬうくもぐこ家ぞもふ色、おとぐばよ
とそいぐぐりりくくきぞれきぐむぐらかくくちよがるき
ぞぞよきくぐうちふきりぞ男の女りせくやうよ男び
きくぞそそまぞれまぞ女なぐげきくぬとそ
上句点今
さ色ろよ夜り色きあよひりや色きんよあそのこねん
とぐよくりりぞ男おりれとあひてその表ばぞ物よりぞ世中

乃色いとりてありふぞばぞひ男ねぞそねぞ物ぞひん
きおりふぞと四とねきとりぬきりぞりあれんきねむなんりりく
背男。女れりそりふぞりらふぞまぞりれば男ぞく
なすわりんおやくさよ強りり
吹風よぞあるりきばむまぞ色ぞりとめくくぐ物
ぞりりきあね風よはきとりむまぞ色ぞゆりりこ強りぞ
背おほやげおげりきぞふ強ふ女のりこゆりりれりりあり。
きりりおやりきやもんぞりこぞりりりりぞりこ強りり。
女よりりりり

ものとはいふべからずとぞ。
こゝのくだりしよりあり給へまた礼のぞめんざしよりの
うへにもとゞまらで。ぜひなりぬるうれしさとへ
ゆくすえをかねてよろこぶべきうまひろれば皆
人をうらやましがりぬ。されどもの。ぞきぜつろう
ぞ門ばとりておくるまでのまうぐりぬくかさなす
はくおりまきれよ。ぬもうこはらうよ。ぬぐんばはぬう
ぞうびぬべーとくぶ。ぶぞふをんまぐあくれんやめ給へ
とかるけ。祇まとぞろれどぞやまさうよ。ぞをあがくて
ぞまりなく。ぞうれをれがこれどぞんやうじぐんを。ぞ
よびて。ぞをーといふぞうへのぞてなんぞうをろぞうら
ぞびうまくぶぞかれーうを。ぞまうをうてぞ。ぞより。

[illegible]

[illegible]

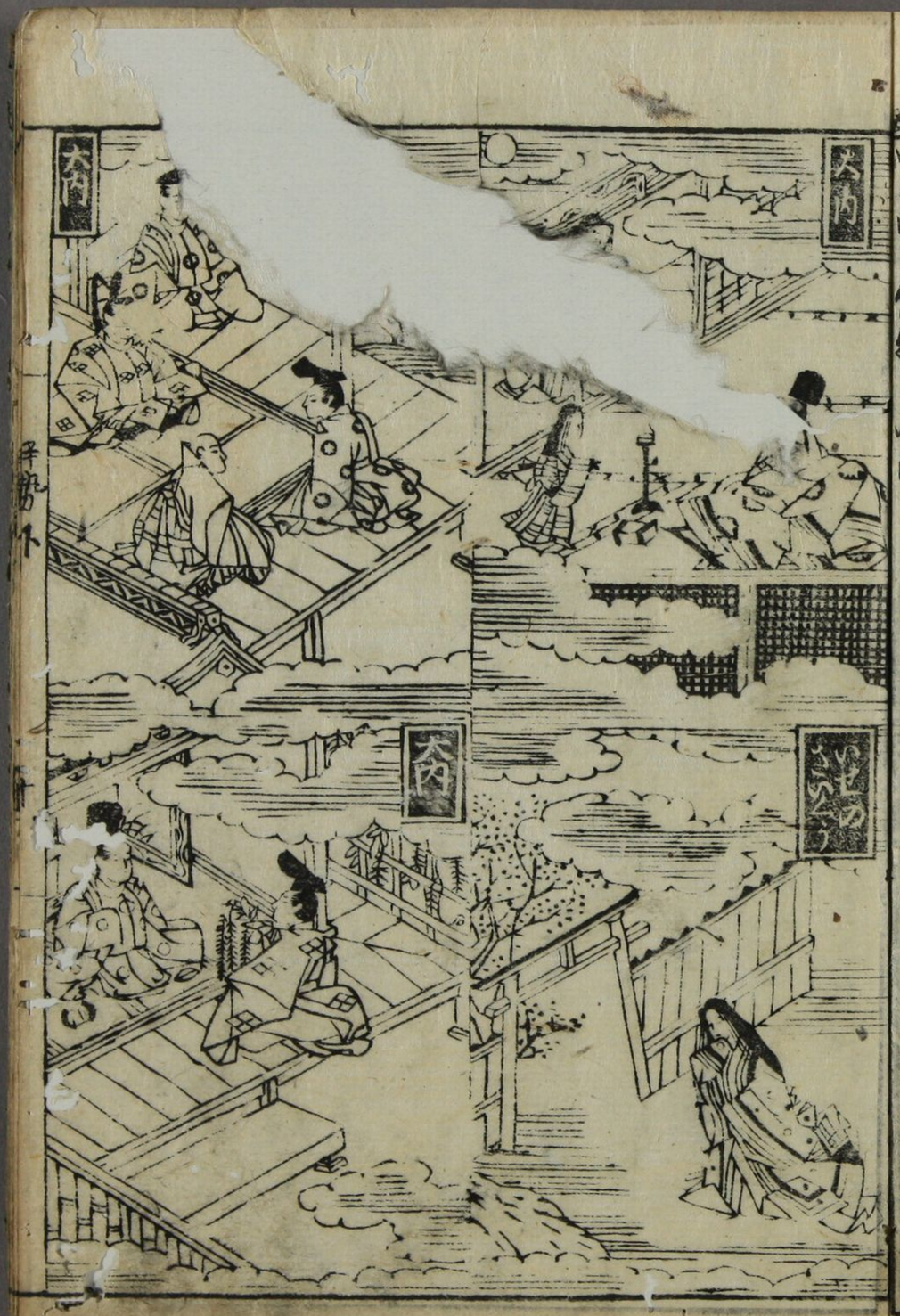
[illegible]

あれはてゝ
ものすごうこそ
はしりよりぬ
ものすごうこそ
はしりよりぬ
ものすごうこそ
はしりよりぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]



の文よ出ぬとゝひまつ女ぞ
捨て人の
ふりやふつ神のいづれもおぬ
ぬ
ぬ

大波の涙よりあふれてふるかうらのよりかたいちがねをてらひろこと
とのものこゝろをしてはまこすんとりくれば
神のまこてあるれりかんまこ
岩屋こゝろ。まこうにはつまなくいはひ塩こもりひそこんん
又方
涙まどのまこつくもりて世のぐんのつくこむい神のもづくう
世ありあふるもりるれかよなん
昔。二条の后孔。まこまこの
神よまこうで落ろにぬのあぶ
ろく落ろはいでよ御車より落ぐよこぐぬりけり
古今
大系やふ堀の山もろふこそ八神代のこともあひづくゆん
とてぐまもうれーとやぬひろんぬこんぬこ
昔西ひこかどくとぬにまりーはこりぬこ時の女れだなこ

ととはぬまそかりけるそのうをあひて安徳もうそこまこ
ふけるまこくあれまりろりあつめろのぬりそ
あぐりるぬそこぐくのぬまろ投よ付て嘗乃
およぬくまれぬもはこに嘗れまへようぬ紀出ろやう
ようんみころぬれぬ大殺よぬこりけ落ろのぬ
孫ゆまとはぬまこりてぬこうのぬろ殺よ二のよ妻人今
ぬぬわつくぬふのこまこを影すぬまのむぐへあつ二のまう
を落ぬれぬむまれこなりけり義めろこりひまぐこまころ
山のこれつりてろふよあふとはぬまろ乃初ぬろふとなるべし
ぬこまこりけりぬ今乃まはぬよくもあらざりろりぬそのり
こはぬまこやまこるまろんあるれりろり

女御従四位下藤多賀幾子右大臣良相公之孫従三位中納言正三位兼右近衛大将藤原朝臣長良公之女母従三位藤原沼田氏天安二年十月四日卒

昔多紀ことはぬ女れはあはまりけりぬを乃へて。なこ七長の

まぎ安祥ちゝ系右頂文建立るゝ山藏国山刻し右
安祥ちゝ系右頂文建立るゝ山藏国山刻し右
ぎ

こもりよりその日あそびふるまひ人の許へおくりてまうとしたりそ
ぬまつくしどのそ打つにとの間よ芸へぐくうとあらしこゑへど
なほたのおいまうちえいぐそうりうかとほのあふ
（法眼嵯峨家貞十三任尼大臣仁和三年従二位寛平九年輦車七年八月薨七十三）
六条まうりよ都をのとれもろく侍りて侍ひそり
神主門のほごりりぐ菊の花うつろひさうりやまうり
紅葉ちちくさぐ色つうりぬこうちぬはしまうこをそ
一よ酒のにおそびうぬぬ紅葉のけりてゆく雁のひ夜のお
もろさとぬ色ぬ方ぬくうくぬ義板
安乃ぬくふぬひありそて人よこれ山をたてぬ侍ろ
酒がぬよりうこにそんれなれ弱もろ永八家よりなん
とすんこそけつぬうちのふぬうりけつにおやちくおと
ろぐ和くおぬりそりすぬ見ととち千よおくの中に酒

ぐ毎とりよりぬろろ和なるりろぬれなんの義ぬろよ
宴をめぐくぬ酒ぬ毎よりつのそふろんとよめまろろ
（惟高 文徳天皇三母従五位上紀静子 名鬼茄品 号小野宮）
当ぬ毎たのろ見こととぬ見ことこまりはろろ山ぬ見のおれ
たよ水を激とりふ和ぬ毎ぬりろろ毎の梯乃花盛よハ
その文へなんぬ思いはろぐぬ時右乃ひまのうこなりろ人
とぬひりよあくぬりはしろりぬ見よくにくぬよろれ
ぬそのの人の名まを毎よろろりかりいれんぬすまぐ酒をのこ
のこうぐぬ和ぬにぬろれまけりぬ人うるまをろかくのぐ見ぬさのい
ぬそのの院の梯ことふ面向ぬそのまりとにりりあくぬ殺を
和てりぬこりよりてりこぬはりもぬる言の続ろりぬる山ぬ人のろ
世中に絶て梯のおりをぬ芸乃ぬいのどのりろまり
となんぬよころりろりぬ人のろぬ

散ばらそぶとぐ横へめでたき
とそそのまれとぶるもちぐ人ぶ
人間とりこせぐ生まりぶでそうぶ
きぶどりあもふぶきれ間とふ
あぶこまりぶみ　みぐあひろぶ
みぶろを紀みてぶよこぐ盃さ
のこぐよるこぐぶそそうぶろ
百今　物ぶらぶセクづあふやどぶらんぶぐれぶこまふろ
見てぶの成ぶてぶ生ぶふて色ぶ
ぶぐうまぶりぶそれぶぶ
百今　一と世ふ一ぶまきぶ見まて
海ぶまそぶ人を待ひぬ東ぶ

見こゝろぬひ　八ぬひるんとゝ十一月の月もうれるとこゝろぬぬむ
古今　わりなくふかきこゝろも月のうへにあくらゐのなぐさめてみぬこゝろのうらみ
見こゝりがらりもまくるうつりて紀ろあらはす
後上野峯雄撰　すくなくぬきもろひるよりなりちんゐなくゝ月もうつぶを
ぬる。あ云歌ふかゝよひぬひ　ぬれろうたこゝまのの道よ。ぬひまん
ともにぬるもるなろ歌ゝうもつまろ日ちろへくゝふかゝうり法ふ
ろり法ゝまりてゝくゝれんとゝふよゝあくんきあひろく法ろん
とそゝろきゝゝまろゝぬむきよくゝんりとれゝりて
枕そゝぬひき法ふとゝ世歌の表とゝふなめまれるくよ
やこゝよくゝろ時ハ孫生ろはゝゝゝりなりけるゝんこゝあるとのあくゝ
らゝぐおろくゝたまひてゝろうゝかくゝつくゝまゝゝでぬろうまゝりゝろを。
思ひのおふぬゝゝ　寛政十四年七月出版　ぬろ　ぬゝくゝろうゝむ月よゝあゝくゝなんとゝく。

小野ふまゝゝでたうにぬひえのゝろふかとゝれゝを言ふとゝ白ゝちのくく
こゝひろよゝまゝゝゝてゝゝゝくゝなろにゝまゝくくとふとゝゝろ白くくふゝろ
まゝくゝれゝゝやくくくくふくくろひてゝゝはゝのゝゝなとゝゝひゝあゝてゝゝゝ
ろうゝちくくもゝくくろひてゝゝれと思ゝとゝゝゝやけくゝゝとゝろくくれゝ
ゝんくふくうりでゝくくれゝりゝんゝゝとゝて
古今　ゝまゝてゝ義かゝとゝ思ふゝゝりゝゝゝや言ゝゝ今てゝゝくんとゝハ
とゝゝゝんゝくくくくゝゝゝゝれ
古今　ゝゝゝゝ

かのこぶくろうちなりて。よあるを　寺親王真親　千九月薨

世中にさらぬ別のなくまでもちよりと行る人のをろかたは

當男。をろかりまつふるまつけつこえぬ。あやし給

てをり。むつまをるるびまうでをりあやをあをづ長をれをづ

称ふをまうでをぢ。ぢまどりのひうしなをづがうでをろう

をんをるけつ當つうまつしんをづくをろぜんじをるあをまを為

あつをまてむつをれをぢ。むをぢろとをぢ。ぢをこちの給ひをろう當む

びをがうと。澄をへ見ひりをよやまをづをれをあひをく當をふりをあ

らをまをうとりを成。をまをて。をあをの給りけるを

古今　四へども方をてをまの称をめをれを當ぬ當ろ給ををろをむなを

と。給りをれば。こふとをうを。ををづを給をて所ををををを給をを

當ふとをろ紀男。をあをを女をあひをりをろ。ををくをあををををべ

給をくをひをさをてやをふをり。年ぢをく女の許よ物をろは

ををさをんとやをひをん男をを後をまをて。をれをりけるを

新古今　今を世ふをれぬ人世ふをもはをを。をのををををぐをを世をあをを

をてやをこふをり男をも女をもをあひををれぬをづくをををんをる

當男。ぢの國むづをのをを當をあを。をを當ををををは。をを

新古今　をををををり。むををををふ

芦の葉ろをを孔雀やををををとを

ををををけをををの宝をを。をををを家ををん芦やのををををを

ひををを式男をををををををれをを。ををををををををををを

ををけををとををををををををを小樣をををを

をををををををの男ををををををををを

ををををの家のををををををををををを

ををををををををををををををを

見るにうれ瀧ものうこと[illegible]
石のおもてよりくぐぬけ出ぬ[illegible]
ぞうの滝のうこにまらうの大きさ[illegible]
その石ばらへおちらまかる酒水いせうかびぐりれ大きにて。
[illegible]ぐ[illegible]ありそこ半ばうへ[illegible]れ瀧の[illegible]
我世とぞうあんとまつひの間の瀧といづまたちうん
あらじ[illegible]

ねれ乳ぬ人をあらしに白ぬ乃ぬ[illegible]なくもちうの結乃をぬよ
とぞよめりうれだがうへの人ぞ[illegible]ふうとやうちんぞ[illegible]
でぞやうふうり海ううう石出くうを[illegible]
ぬ[illegible]のおうへ小日うれねぬ[illegible]
つを火ぬ[illegible]くれ[illegible]のあるじ[illegible]

[illegible]と
聽ぬ[illegible]乃日を[illegible]乃[illegible]のあるれ[illegible]
と慣て[illegible]
めくそのの家の[illegible]
ぬひうれ[illegible]
つるよりまてじはとおりひて[illegible]
まぜ海乃ぬ[illegible]
井ずうへの[illegible]
ぬぬとまうれ[illegible]
くぞれが中にひとり
[illegible]
ぬぬやううぬ[illegible]
人をぞ我世なばおちうさなくぬの[illegible]

なるぞとぞひまうりんが義をや思ひうんざ
らべおんぬごみくぐとうまろをぞぐりさぐぐうれてぐぐう
たうりくさうろんばおりーろうんけう猫ようけく
猫死ぞふこそかくも自ろ死おあたのこうなのひのみこと
とぐふむぐくもあるべー
第。月日ろゆくをさうぐなげくく第。三月ろ晩日ぐさよ
返撥
おーしめごとぞまろろりのろふのはぞ昔にさうなりふろ
第。蛭ぐふぞろくうくまどぞ女ぞぜうそこをぐふぐんまぐぞあ敷
芋虫ぐだ虫ぐふ毒ぐうぐんぐろうくもなこ
第。第。勇ぐうやーくぐとふなんぞぞうぐうぐろりぐにに
まのこぬぐぐうさふやぞりろんぐてぐひぞおろぐ思ひぞへ
まひくぐあろ

あるあるくさひいたびなるそくさぐらいやさくさ屋しかりり
むしもがくれるいぬせたもあもとりあやおりろん
首男ふけりぐろくろんその男ぐちさびなよろり嬢り
男ありけまごぐろりゆりなりろれいぐさかふそろう孫ぐ
ちれぐやひとをけりぬうるふあく人なりろれぐろれと屋
まりろぐぐ今れ男りぬもとてぐちひふつぐをこせぐりけり。
うの男ぐとけるくぐのぐぐそゆうるをぐ今すぐだるるひ。
ちとりと思へぐ教へぐぐるりんけぐ物よなんありけりこ
てりぐてすぐやまりけりぐ時ハ秋よなんおりあり
物りよ美日まりくやるんあれや嬢にるりやちへまるりん
とぐなんしありろりぬあ
ちぐり秋ぐりうの美ふやむりハやり祭も乗もるとふるて

首二乗り后ふぐりうまつぐ男ろりぬれぐりうまりぐけ
孫よぐんりる。まひまるりけるまぐ。ぐにいめん
ておりりれくぐ思ひけやるる手。ぐにぐろかうんとひれハ
ぬぐと思ひて物ふよ逢よりり。物孫すぐしておりそ
美里に思いさけりぬ天川ぐぐうりまりぐけぐうりそけ
ちのうるに光でくおひよりり
首男ぐりけりぬぐとりくいるりぐ家とぐひありぐりぐ
孫ぐぐんりる酒とりぐひりんやりり成りれぐぐ男ふるぐひりりぐぐ
月りぐちぐりり成りれぐぐ男ふるぐひりりぐぐ
よりりぬひおこまりりぐりさんハ伊りれもすぐ男ふるさも
ひりりぐりりぐりりぐ時とりとあ門ぐぐに秋風吹りりなイ
時ぐれりびおりんとりへまりりぐ物ぐりりひりぐ家りこりり。

そのんの許いうんどなりちゝ
くれどびかつまをうどぶをうに
びかうえぐのぬ幻然をえつ

雅ひけうびあうもあうなくぶぬ
とうれををてぐこようぐ
てぐうくねつぬふうまど
やおんびめ〜ぬとうどぬ
ずんのうひをうなれむく

物しやあうんおうぬ物しや
物しやあうんおうぬ物しや

照宣公基経貞観十四年八月廿日右大臣従二位藤原朝臣
笥ぬりりのあいまうちうこと
の嘆九条殿ましてぎうう

古今
横雲ちりかひ晴れあひ

笥。忠仁公天安元年三月十九日大政大臣五十五四月九日薨位二位二年十月右大臣清和外祖
笥。長月ぬりに横ぬ俗り枝
大政大臣
古今
家ぬむ
とぶようぐぬりたりうれぬ
ぬくうくうけぬ

業平貞観六年三月右小将七年右馬頭十九年正月左中将
笥。右近ぬる場ぬひとりれ月。むひうそをまりうう東
よ女ぬうぬの下をうれまりぬ。ぬうふぬみうれをを中物をまり
うう笥ぬようて俗りけう
古今
見ぬどとあうびみとをぬ
古今
ぬ
ぬらぬぬうあやうくまれ
のぬうぬりれうぬ。をうけう
笥。笥。後深夜のうんぬぬ。ぬうりうれあうやむうとまれぬ

ろかつぐ　ようぶまぶ　ぎ　ぎ　ぶ　ぶ　ぶ

まうりやぶらうまろんぶんこちらい俳諧ろうんぶんぶんぶ

[illegible]（夏田親三）たちのぶ

古今

ちはやふる神代もきかず竜田川
からくれなゐに水くくるとは

[illegible]（敏行四名虎女）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なんみく　ゐなひつるとぞ　へつまへ　ゐだ男
四ひあそるぞ　ゐは　むろあるちんぞ　ふくみくば　ゐむ　ゐ
男ぞ　やむごとれさ　ゐ　ゐとに　ゐくるりふろ　ぞ　ふ
やうるぞ　ひ　ゐりろ

いふ　へ　ゐりゐ　ゐろん　今　ぞ　ろ　ぞ　ま　ざ　ろん　ぬ　ん　ゐ　ま　ふ　ろ　ゐ　の　ゐ　ハ

（古今集）下紐ろ　ぞ　ひ　ぞ　ゐ　ろ　ま　ゐ　ま　ゐ　ま　ゐ

当市門もりんすに行ちよし　後ひろう

百八十　作者不詳　我りんくもぷくぬぬ住吉のさと姫松ちくよぬらん

かりんがこげぶやうしゆひく

百八十一　作者不詳　もつじこそえもちつ波こそのひこそのひこそ世よりうらひこあて

当男　久しぬこるもきこぷひろこびもなすこまるもちんどらうれ

百八十二　作者不詳　玉葛とこまおまるにぬぬまこびきこぬんのうれこ者もは

当女　ひおこなろ男ぬこことそこまたろ物どもどかこく

百八十三　作者不詳　かこんここぷ今ぬぬこまなくぷろこ時もあらしは物ぬ

当男　女ぷまこ世ぷぬどもぷ物ぬころぷ人のれ許よこのひく

百八十四　作者不詳　物ここもえんくのちかどあこく

百八十五　作者不詳　あここすぷくこ沢際ちくまぷこまなれ人のなこのぷかん

当男　物つべりぷ為ふぬまこく人のこかりあろどかんく

当れ花とめこて女ぬこもぷあろ沢人よこもせこぷくさん

百九十一　作者不詳　ぬろ花とめふるあかこられこひを沢ぬよりてこあ所ん

当男　ちぷまろことおやまこれろ人ろり

百九十二　作者不詳　山城のあくのむあこまに鶯ひたぬころひもなれ世ぬけり

とぷひやまどぷくこまび

当男　ろこりぷろ美に住ろ世やろくあれこまや四

百九十三　作者不詳　ひろんがれ京とぷよころりろ

百九十四　作者不詳　ひこ住に里をあそぷれこひこ源を雲ちやかろ

女　野とやまこへ鶯となりて鶯

とぷよころりろにめこくゆんとちぷすくぬよろり

当男　ぷろりろにまこりあこ沢ぬこ

ちぷりぷいこぞたこにやこぷ家ぬこひこきこ人ぬなひ住

當男。まづ〳〵ひとくにちをつべくのあるべしてくだ
たまへ　ほねおれ。たとへりてこれどもそのまことをいはざりしを

下巻終

近代以降使臣為諸侯者出来代々人今案之文不可用
此物語古人々説々不同或云左中将実方朝臣或云
業俊或云有書落臣為上古之人陸奥之名也
云々只可就詞花云歌而已　戸部尚書在判

右書本者為定家卿自筆　禁裏御所之隨身
徳寺出為所望本不遠一字一点令遠写遠并校施
雖然誤之誤代雖遠為二十時長録宮二番仲
陽初三位朝

内閣文庫

第屋作右衛門

岩内者男隆極
たまへ
村岸
春風　岩内